

保護者各位

八戸市立西白山台小学校

校長 八嶋 俊次

SWOT 分析詳細版

はじめに

2学期に行いました SWOT アンケートへのご協力ありがとうございました。皆様から寄せられた貴重なご意見をもとに、本校の現状を多面的に見つめ直すための「SWOT 分析(スウォット)」を行いました。SWOT 分析とは、学校の「強み(Strength)」「弱み(Weakness)」「機会(Opportunity)」「おそれ(Threat)」の4つの視点から、よい点や課題、今後の可能性を整理する方法です。ビジネスの分野で使われる手法ですが、学校づくりにおいても、現状を客観的に把握し、これからの方向性を明確にするのに役立ちます。

分析にあたっては、アンケート結果を中心に、PTA 役員と教職員の意見、地域の状況もふまえて検討しました。以下、アンケート結果についてご報告いたします。

1. 保護者対象アンケート結果

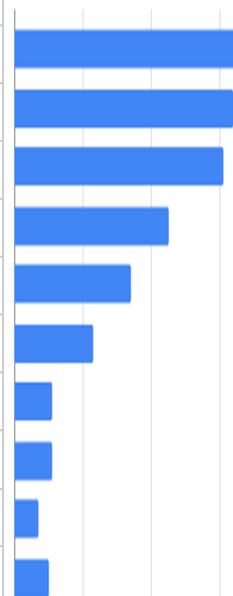
- ◆ アンケート実施期間:令和7年11月5日(水)~11月12日(水)
- ◆ 実施対象者:西白山台小保護者世帯【346世帯】
- ◆ 有効回答者数:271【回答率:78.3%】

(1) 強み(Strength)

強みの項目	回答数
子どもたちがのびのびと過ごせる明るい雰囲気	132
校舎や校庭がきれいで安全であること	95
先生方の熱心な指導や丁寧な対応	67
メディアセンター(図書室)の充実と活用	66
あいさつが活発で、規律が守られている雰囲気	59
タブレットなどの ICT 機器の積極的な活用	44
保護者の声に耳を傾ける姿勢	31
充実した体験学習や特色ある行事	31
地域ボランティアなど、地域の教育力	30
いじめや不登校への迅速かつ適切な対応	9
地域や家庭との密な連携	8
PTA 活動が活発で、参加しやすい雰囲気	3

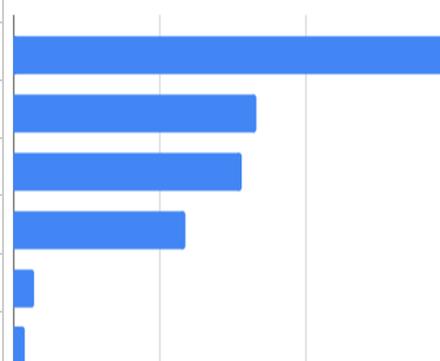
(2) 弱み (Weakness)

弱みの項目	回答数
学力向上への取り組み	67
子どもの多様な学習ニーズへの対応	64
家庭学習の取り組み方	61
面談の機会が少なく相談や意見を伝えにくい	45
登下校時の安全対策	34
学校からの情報発信や連絡体制	23
いじめや不登校への対応	11
特別に支援を要する児童へのサポート	11
校則や規則が時代に合っていない	7
その他	10



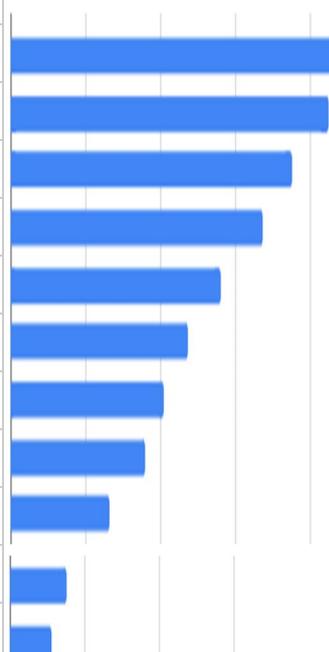
(3) 機会① (Opportunity)

期待する活動	回答数
地元企業と連携した体験学習	150
地域の歴史や文化を学ぶ学習	83
地域の専門家を招いた授業	78
タブレットを活用した新しい学習方法	59
ボランティアや家庭と連携した読書活動	7
その他	4

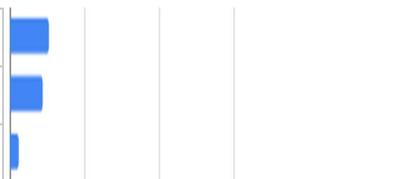


(4) 機会② (Opportunity)

育んでほしい力	回答数
善悪が判断でき、実践できる子	110
思いやりのある子	106
粘り強く頑張れる子	94
自分の意見を明確に表現する子	84
多様な人々と協力する子	70
主体的に学ぶ子	59
あいさつのできる礼儀正しい子	51
親切でやさしい子	45
明るく元気な子	33
情報リテラシーを身につけICTを適切に活用できる子	19
進んで働く子	14

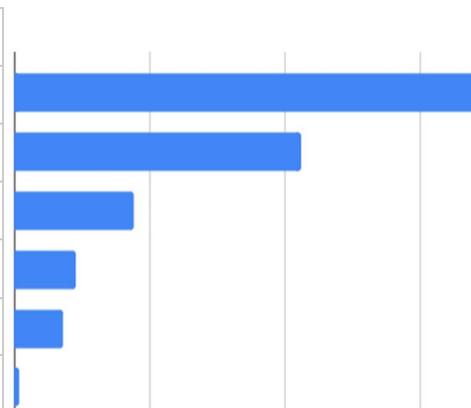


学力が身につけている子	13
進んで運動する健康な子	11
その他	3



(5) 脅威 (Threat)

脅威の項目	回答数
SNS などでのトラブルや誹謗中傷	172
教員不足や専門性をもつ人材の欠如	106
家庭事情による保護者活動への参加困難	44
地域コミュニティとの連携の希薄化	23
災害や非常時の対応	18
その他 (個別意見)	2



2. アンケート結果の概要

(1) 強みについて

集計結果から、保護者の皆様が特に学校の強みとして認識されているのは以下の点です。

- ① 環境・雰囲気：最も票を集めたのは「子どもたちがのびのびと過ごせる明るい雰囲気」であり、学校のソフト面での質の高さを示しています。また、「校舎や校庭がきれいで安全であること」が2位に入り、ハード面での安心感も高く評価されています。
- ② 教育の質：「先生方の熱心な指導や丁寧な対応」が上位に入っており、教職員への高い信頼がうかがえます。
- ③ 設備・インフラ：「メディアセンター (図書室) の充実と活用」と「タブレットなどの ICT 機器の積極的な活用」が比較的高く、教育環境の整備状況が強みとして認識されています。

特に「明るい雰囲気」「清潔・安全な施設」「熱心な先生」の3点が、本校の教育の根幹を支える最大の強みであると明確になりました。

(2) 弱み

集計結果から、保護者の皆様が特に学校の弱みとして認識されているのは、以下の3つのカテゴリーです。

- ① 学習・教育内容の課題 (トップ3を占める主要課題):
 - 「学力向上への取り組み」(1位)、「子どもの多様な学習ニーズへの対応」(2位)、「家庭学習の取り組み方」(3位)が突出しており、教育効果と個別化に対する保護者の皆様の関心と改善要求が非常に高いことが分かります。
- ② コミュニケーション・連携の課題:
 - 「面談の機会が少なく相談や意見を伝えにくい」(4位)、「学校からの情報発信や連絡体制」(6位)が上位であり、学校と家庭との双方向のコミュニケーションの改善が重要な課題です。
- ③ 安全・安心への課題:
 - 「登下校時の安全対策」(5位)は、学校の「強み」の一つに「校舎や校庭がきれい

で安全であること」があるにも関わらず、登下校時という学校外の安全については弱みとして認識されており、対策の強化が求められています。

特に注視すべき点

- 。「学力向上」と「多様なニーズへの対応」がほぼ同率でトップであり、一律な指導ではなく、一人ひとりに合わせた「学び」の質と方法の改善が、喫緊の課題と言えます。

(3) 機会① (Opportunity - 外部連携)

保護者の皆様は、学校の「強み」である施設・雰囲気だけでなく、より実社会と結びついた活動を強く求めていることが分かります。

- 。地元連携とキャリア教育: 「地域社会と連携した体験学習」が圧倒的多数でトップであり、地域資源を活かした実践的な学びやキャリア教育への期待が大きいことがわかります。
- 。専門性と地域性: 「地域の専門家を招いた授業」と「地域の歴史や文化を学ぶ学習」も非常に多く、地域の人材や資源を教育に取り込むことで、学びの深さと広がりを増す大きな機会があります。
- 。ICT の活用: 「タブレットを活用した新しい学習方法」も上位であり、「強み」で ICT 活用が評価されている点と合わせて、さらなるデジタル教育の進化を期待する声が根強くあります。

(4) 機会 (Opportunity - 育成ニーズ)

保護者の皆様が学校に最も期待しているのは、社会性と人間性の育成です。

- 。人間性・社会性の重視 (トップ 3): 「善悪の判断力」「思いやり」「粘り強さ」がトップ 3 を占めており、学力以上に、困難な時代を生き抜くための倫理観、共感性、精神的な強さを学校教育で培ってほしいという願いが明確です。
- 。主体性・表現力・協働性の重視 (次点): 「自分の意見を明確に表現する子」や「多様な人々と協力する子」「主体的に学ぶ子」も上位であり、社会で活躍するための自立した思考力とコミュニケーション能力の育成も強く求められています。

注目点: 「弱み」で「学力向上」が課題とされましたが、「機会」の育成ニーズでは「学力が身につけている子」は下位でした。これは、保護者が、学力向上はあくまで手段であり、学校には人間的な土台や社会で生きる力を育むことをより本質的に期待していることを示唆しています。

(5) 脅威 (Threat)

集計結果から、保護者の皆様が学校教育への最大の脅威として認識しているのは、テクノロジーの負の側面と教育現場のマンパワー不足です。

- ① インターネットを介したトラブルの深刻化: 「SNS などでのトラブルや誹謗中傷」が圧倒的な 1 位であり、現代社会におけるデジタル環境の進化が、子どもたちの健全な学校生活を脅かす最大の懸念事項であると認識されています。
- ② 教育資源の不足: 「教員不足や専門性をもつ人材の欠如」が 2 位であり、学校運営の根幹である人的資源の確保が、質の高い教育を維持するための深刻な脅威であると捉えられています。

③ 連携体制の弱体化: 「家庭事情による保護者活動への参加困難」や「地域コミュニティとの連携の希薄化」も上位に入っており、学校を支える家庭や地域の力の低下が、教育活動全体の停滞につながる脅威と見られています。

これらの「脅威」は、先に確認した「弱み」(多様なニーズへの対応や情報連携の課題)と密に関連しており、学校が外部のマイナス要因に対して非常に脆弱な状態にあることを示しています。

3. 保護者アンケート結果に基づく SWOT 分析と経営戦略

(1) SWOT 分析結果まとめ

カテゴリ	主要な要素
強み (S)	1. 明るくのびのびとした雰囲気 (ソフト面の質)
	2. 清潔で安全な施設 (ハード面の充実)
	3. 先生方の熱心な指導 (教職員への信頼)
弱み (W)	1. 学力向上/多様なニーズへの対応 (教育の質・個別化)
	2. 家庭学習の取り組み方 (家庭連携の不足)
	3. 面談機会の少なさ/情報発信 (コミュニケーション不足)
機会 (O)	1. 地元企業との連携体験学習 (実社会との結びつき)
	2. 地域専門家の招致/ICT 活用 (外部資源の活用・教育の高度化)
	3. 倫理観・社会性・粘り強さの育成期待 (保護者の本質的な育成ニーズ)
脅威 (T)	1. SNSトラブルや誹謗中傷 (デジタル社会の負の側面)
	2. 教員不足や専門人材の欠如 (教育の質の維持困難)
	3. 家庭・地域連携の希薄化 (学校支援力の低下)

(2) 総合分析と戦略の方向性

この結果から導かれる戦略の方向性を「攻めの戦略(SO・WO)」と「守りの戦略(ST・WT)」に分けて策定します。

A. 攻めの戦略 (Strength + Opportunity) - 強みを活かし、機会を最大化する

戦略名	ねらいと具体的なアクション
地域連携型 キャリア教育 の推進	【ねらい】「明るい雰囲気」と「熱心な先生」という強みを活かし、「地域社会と連携した体験学習」という機会を最大化する。 【アクション】地域の専門家や企業と連携した体験プログラムを開発・実施する。これにより、子どもの主体性や多様な人との協力という保護者の期待に応える。
強みと ICT の 融合	【ねらい】評価の高い「ICT 活用」と「メディアセンター」の強みを、「タブレットを活用した新しい学習方法」という機会を深化させる。 【アクション】ICT を活用した探究学習や協働学習の時間を増やし、「自分の意見を明確に表現する力」の育成につなげる。

B. 守りの戦略 (Weakness + Threat) - 弱みを克服し、脅威を回避・最小化する

戦略名	ねらいと具体的なアクション
「学びの質」 改善プロジェクト (WT)	<p>【ねらい】最大の弱みである「学力向上/多様なニーズへの対応」を克服し、「教員不足」という脅威の影響を最小限に抑える。</p> <p>【アクション】授業のユニバーサルデザイン化の推進と、一部教科担任制を導入し、教材の共有化と教材研究の深化により、教員の負担を減らしつつ、個別最適な学びと「粘り強さ」を育む指導法を確立する。</p>
情報・コミュニケーション改 善計画 (WT)	<p>【ねらい】「面談機会の少なさ/情報発信」の弱みを克服し、「SNSトラブル」の脅威に対処する。</p> <p>【アクション】全校的な指導体制により、情報モラル教育の一元化を図る。また、SNSの危険性だけでなく、情報リテラシー教育を全学年で徹底するため、道徳と特活、メディアコントロール週間を関連させた指導を行う。</p>

4. 教員対象アンケート結果

- ◆ アンケート実施期間:令和7年11月5日(水)~11月12日(水)
- ◆ 実施対象者:西白山台小教育課程編成メンバー【21人】
- ◆ 有効回答者数:18【回答率:86%】

(1) SWOT 一覧

カテゴリー	主要な要素	回答数
強み (S)	1. 主体性や学習意欲	7
	2. 学校と地域・家庭との信頼関係	7
	3. 地域と連携した教育活動	6
	4. 教職員同士の風通しの良い協力体制	5
弱み (W)	1. 会議や事務作業の多さ	8
	2. ICT 環境の不備や活用方法	5
	3. 教員間の指導方針や計画の共有不足	4
	4. 保護者対応や生徒指導への負担	4
機会 (O)	1. ICT を活用した教育の個別最適化	8
	2. 不登校や特別な支援へのサポート強化	5
	3. キャリア教育の推進	5
脅威 (T)	1. 保護者からの過度な要求やクレーム	9
	2. 教員の働き方やメンタルヘルス	8
	3. インターネットによるトラブル	6
	4. 児童間の経済格差による学習機会の不平等	4

(2) 教員の育成観

育んでほしい力	回答数
善悪が判断でき、実践できる子	8
粘り強く頑張れる子	8
多様な人々と協力する子	7
思いやりのある子	5
自分の意見を明確に表現する子	5
主体的に学ぶ子	4
学力が身につけている子	3

(3) 育成観の概要

人間性(善悪の判断・思いやり)と非認知能力(粘り強さ・協働性・表現力)の育成を重視しており、保護者アンケート(倫理観、社会性、粘り強さの重視)と高い一致が見られる。

5. 教員アンケート総合分析と戦略の方向性

(1) 学校の「内側」が抱える構造的な課題

A. 攻めの戦略 (Strength + Opportunity) - 組織的な教育効果の創出

戦略名	ねらいと具体的なアクション
信頼関係ベースの個別最適化	【ねらい】「地域・家庭との信頼関係」や「風通しの良さ」を土台に、「ICT を活用した個別最適化」という機会を推進する。 【アクション】教員間の連携を強化し、授業計画を共有 (W の克服) しつつ、ICT を最大限活用して、学力向上と多様なニーズへの対応 (W の克服) を実現する。
地域連携を活かした人間力育成	【ねらい】「地域連携の強み」を活かし、教員が期待する「善悪の判断」「粘り強さ」を育む。 【アクション】地域の専門家を巻き込んだキャリア教育や、課題解決型学習 (PBL) を実施し、主体的な学びを促す。

B. 守りの戦略 (Weakness + Threat) - 働き方改革とトラブル予防

戦略名	ねらいと具体的なアクション
教員負荷軽減による質の維持	【ねらい】最大の弱みである「会議・事務作業の多さ」を改善し、「教員の働き方やメンタルヘルス」の脅威を軽減する。 【アクション】校内会議の削減と、ルーティン事務作業のデジタル化・アウトソーシングを断行する。分掌組織の役割を再検討し、教員の多忙感の根本原因を解消する。
危機管理と倫理観教育の連動	【ねらい】「保護者からの過度な要求」や「インターネットトラブル」の脅威を予防し、「ICT 環境の不備」の弱みに対処する。 【アクション】デジタル利用に関する児童と保護者向けのリテラシー研修を行う。情報モラル教育・デジタルシチズンシップ教育推進のため、道徳における指導とともに、活用型情報モラル教材を導入し継続的な指導を行う。

(2) 校長としての結論: 二重の課題への挑戦

教員アンケートから、本校は以下の二重の課題に直面していることが明確になった。

- ① 内部的な非効率性 (弱み): 教職員は、「会議・事務作業の多さ」や「ICT 環境の不備」により、教育の本質である授業改善や個別指導に集中できていない状況があります。
- ② 外部からの圧力 (脅威): 「保護者からの過度な要求」と「働き方・メンタルヘルス」の問題が表裏一体となって、教育現場の疲弊を招く最大の脅威となっています。

この状況を改善するため、優先事項は「守りの戦略」です。

- 働き方改革の断行: 教員の心身の健康と教育の質を守るため、まずは校務の非効率性を徹底的に排除し、教員が子どもと向き合う時間を最大化します。
- 協働による危機回避: 「学校と地域・家庭との信頼関係」という強みを活かし、脅威となっている保護者対応やインターネットトラブルへの予防策を、学校単独ではなく、地域全体での協力体制によって強化していきます。

「強み」と「機会」を活かした教育活動をさらに発展させるためにも、教職員が安心して、そして効率的に働ける環境を整えていきたい。

6. 統合 SWOT 分析に基づく経営ビジョンの核

(1) 統合された SWOT 要素

カテゴリー	保護者アンケートの主要な要素	教員アンケートの主要な要素	統合されたビジョン核
強み (S)	1. 明るくのびのびとした雰囲気	1. 主体性や学習意欲	「主体的で温かい学びの土壌」 「信頼と連携の人的基盤」
	2. 清潔で安全な施設	2. 教職員同士の協力体制	
	3. 先生方の熱心な指導	3. 学校と地域・家庭との信頼関係	
弱み (W)	1. 学力向上/多様なニーズへの対応	1. 会議や事務作業の多さ	「教育効果と効率性の二重の壁」
	2. 家庭学習の取り組み方	2. ICT 環境の不備や活用方法	
	3. 面談機会の少なさ/情報発信	3. 指導方針や計画の共有不足	
機会 (O)	1. 地域と連携した体験学習	1. キャリア教育の視点	「実社会連携と個別最適な学び」
	2. ICT 活用	2. ICT を活用した個別最適化	
	3. 倫理観・社会性・粘り強さの育成期待	3. キャリア教育の推進	
脅威 (T)	1. SNSトラブルや誹謗中傷	1. インターネットによるトラブル	「外部からの圧力と教員の疲弊」
	2. 教員不足や専門人材の欠如	2. 教員の働き方やメンタルヘルス	
	3. 家庭・地域連携の希薄化	3. 保護者からの過度な要求やクレーム	

(2) 経営ビジョンの核となる要素 (3 つの柱)

柱	ビジョン名	戦略上の位置づけ	目的 (何を達成するか)
第 1 柱	「協働と実践による人間力の育成」	攻めの戦略 (SO)	協働体制 (S) を活かし、地域・企業との連携 (O) を通じて、保護者・教員が共通して求める「善悪の判断力」「思いやり」「粘り強さ」などの非認知能力を実践的に育む。
第 2 柱	「個別最適な学びの実現と効率化」	守りの戦略 (WO)	弱み (W) となっている「学力向上」と「多様なニーズへの対応」を、機会 (O) である「ICT による個別最適化」で克服し、教員の指導の質と効率性を両立させる。
第 3 柱	「安心・安全な教育環境の再構築」	守りの戦略 (WT)	脅威 (T) である「SNSトラブル」や「教員の疲弊」から教育現場を守るため、強み (S) である「信頼関係」を基に、校務の非効率性 (W) を排除し、危機管理と教職員のウェルビーイングを最優先する。

(3) 学校経営の方向性

温かい土壌と強い信頼関係を基盤としつつ、実社会と連携した個別最適な学びを実現する。そのために教職員が安心して教育に集中できる環境を最優先で整備する。

7. めざす子ども像

(1) 善悪を判断し、主体的に行動できる子（倫理観と主体性）

- 根拠：保護者・教員ともに「善悪が判断でき、実践できる子」を最も重視しています。また、教員の強みである「主体性や学習意欲」を伸ばす方向と一致します。
- 目指す力：複雑な社会の課題（SNSトラブルなど）に直面した際、自ら考え、周囲に流されずに正しい選択をし、行動を起こす力。

(2) 粘り強く、変化を楽しめる子（非認知能力とレジリエンス）

- 根拠：保護者・教員ともに「粘り強く頑張れる子」を上位に挙げています。これは「教員の働き方」や「社会の変化」という脅威に打ち勝つための精神的な強さを指します。
- 目指す力：困難や失敗に直面しても諦めず、課題を乗り越える**レジリエンス（精神的回復力）**と、変化を恐れず新しい学習（ICT活用や個別最適化）に挑戦する柔軟性。

(3) 思いやりを持ち、多様な人々と協働できる子（社会性と共感力）

- 根拠：保護者の最重要ニーズの一つが「思いやりのある子」であり、教員も「多様な人々と協力する子」を重視しています。
- 目指す力：互いの違いを認め、異なる価値観を持つ人々（地域連携、多文化共生）と協力し、集団の中で自分の役割を果たしながら目標を達成する能力。

(4) 地域と社会に関心を寄せ、自分の意見を表現できる子（表現力と社会連携）

- 根拠：「地元企業との連携体験学習」という最大の機会を活かすため、「自分の意見を明確に表現する子」の育成が不可欠です。
- 目指す力：地域や社会の課題に気づき、体験学習を通して学んだことを論理的に整理し、対話や発表を通じて建設的に意見を伝え合うコミュニケーション能力。

(5) 個別最適な学びで、未来を切り開く学力を身につけた子（学力とICTリテラシー）

- 根拠：「学力向上への取り組み」は最大の弱みですが、「ICTを活用した個別最適化」は最大の機会です。この弱みを機会克服する姿勢を反映します。
- 目指す力：ICTを道具として使いこなす（ITや情報リテラシー）、多様な学習ニーズに応じた確かな基礎学力を身につけることで、自己の未来を主体的に設計できる力。

8. 生きる力（確かな学力・豊かな心・健やかな体）の視点で整理

教育の側面	目指すべき子ども像（ビジョン）	関連性と現代的解釈
徳 (社会性・ 精神性)	1. 善悪を判断し、主体的に行動できる子	現代社会の複雑な状況（SNSトラブル、多様性）の中で、自律的に考え、正しい行動を選択する道徳的判断力と規範意識。
	3. 思いやりを持ち、多様な人々と協働できる子	他者への共感性（思いやり）を基盤に、グローバル・地域社会で活躍するための協調性とコミュニケーション能力。

知 (知識・ 思考力)	4. 地域と社会に関心を寄せ、自分の意見を表現できる子	知識獲得(学力)を目的とせず、実社会(地域連携)に関心を寄せ、得た知識を基に論理的に思考し、表現する力。
	5. 個別最適な学びで、未来を切り開く学力を身につけた子	情報リテラシーを駆使して、従来の学力を超えた個別最適な学習能力と、生涯にわたって学び続けるための学習基盤。
体 (健康・活力)	2. 粘り強く、変化を楽しめる子	身体的な健康に加え、精神的なタフネスさ、レジリエンス(精神的回復力)と自己肯定感を育み、変化の激しい時代を生き抜く活力。

9. 5つのビジョン(期待される役割)

1. 個別最適な学びをデザイン

- 求められる背景: 子どもの最大の弱みである「多様な学習ニーズへの対応」を克服し、「ICTを活用した個別最適化」という機会を実現するため。
- 実践内容: ICTを効果的に活用し、すべての子どもの学習状況に応じた指導計画をデザインし、実行できる。単なる知識伝達ではなく、学びのプロセス全体を設計・支援する役割。

2. 地域社会との連携推進

- 求められる背景: 最大の機会である「地元企業との連携」や「地域の専門家活用」を推進し、「学校と地域・家庭との信頼関係」という強みを深化させるため。
- 実践内容: 地域の資源や人材(企業、専門家、卒業生など)を発掘・コーディネートし、実社会と結びついた体験的な学びを創出する。

3. 危機管理と生徒指導の専門性

- 求められる背景: 最大の脅威である「SNSトラブル」や「いじめ・不登校」に対応し、子どもたちに「善悪の判断力」を育むため。
- 実践内容: 高度な生徒指導力に加え、インターネット上のトラブル予防や、不登校傾向にある児童への専門的な支援を提供できる。

4. 「チーム学校」を支える実践

- 求められる背景: 教員の最大の弱みである「会議や事務作業の多さ」を改善し、「教職員同士の協力体制」という強みを維持・強化するため。
- 実践内容: 時間管理能力と校務のデジタル化スキルが高く、従来の非効率な慣習にとらわれず、教育活動の本質に集中するため業務改善を率先して行う。

5. 「粘り強さ」とウェルビーイングの体現

- 求められる背景: 脅威である「教員の働き方やメンタルヘルス」を守り、子どもたちに「粘り強さ」を教える模範となるため。
- 実践内容: 自己の心身の健康を管理するウェルビーイングを重視しつつ、常に研修や学びを通じて専門性を更新し続ける。教育活動に熱意を持ちながらも、持続可能でバランスの取れた働き方を追求する専門職。